

2025年度 学校関係者評価

学校法人松本学園・幼保連携型認定こども園さふらん

創立54年目、幼保連携型認定こども園として11年目の歩み
今年度より園長が代わり、栗山園長となる。早坂先生は統括アドバイザーに。

I. 理念・方針・目標

理念

“さばくは喜びて花咲き、さふらんのように、さかんに花咲き、かつ喜び楽しみ、かつ歌う”(旧約聖書)
の言葉のように、幼稚園も社会も、愛と平和と希望の、美しい花園になるように、と願う

方針

キリスト教精神に基づき、より良い環境と自由な雰囲気の中で、子どもたちの個性と可能性を伸ばし
自主性(意欲)と協調性(思いやり)、創造性が育つよう支えていく
互いの違いを認め合い、(ハンディのあるなしに関わらず)共に育ちあう事を大切にする

目標

「いつも元気で、みんな仲良く」育ってほしいという願いをもって日々の保育に取り組む
(自立・自尊・自信→いつも元気で 協調・協力・調和→みんな仲良く)

学年の重点

1歳児	園で安心して過ごし、人に対する信頼関係を築く	} 見ていて下さる神様
2歳児	自分で様々な事をやろうとする(依存から自立へ)	
満3歳児	幼稚園で安心して過ごす	
年少組	1人1人が自分の遊びを充分楽しむ	守って下さる神様
年中組	友だちと関わりながら遊びを楽しむ	愛して下さる神様
年長組	友だち同士認め合い自分らしさを発揮する	共にいて下さる神様

II. 本年度の重点目標

- ①生活環境の変化や個々の成長を的確に把握し、保育者の思いや園の方針を伝えることで、園と家庭が協力して子どもの成長を支えていく。
- ②開催時期が変わる行事もあるので、子ども達が無理なく取り組めるような保育の進め方を考えていく。
- ③フォローが必要な子ども達が増えてきている中で、集団での活動と少人数での個別活動をうまく取り入れ、個々の成長につながる環境作りをしていく。

Ⅲ. 評価項目の達成と取組状況

評価の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた

C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

評価項目	評価内容	取組み状況	自己評価
保育計画	発達段階に則した適切な幼児理解と環境整備が出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導案などの保育カリキュラムは毎年、年度初めに見直し、保育環境や子どもの成長段階に応じて、作成している。 今年度は、9月、10月の暑さを考慮し、運動会とプレイデーを入れ替えた。暑い時期に製作活動に取り組み、運動会の練習も暑さを気にすることなくできたことは良かった。プレイデーから運動会の流れは今年度を踏まえ、再考していく。 ひだまり保育…担当がにじの時間の保育に入り、日頃の子どもの状態を把握、月毎のカリキュラムを計画・作成し、午後の保育に繋げている。 長年、続けている取組みが今の子ども達の成長に即しているものかどうか、保育を見直していく。 	B
	子どもが自ら興味あることや好きなことを見つけ、意欲をもって取り組む保育が出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> 興味あることや好きなことを楽しめるように、子どもの様子に合わせて、コーナーや遊びの環境を設定している。子ども達が生き生きと楽しみ、自ら様々な活動に取り組む姿が見られた。 (年少組:お店屋さんごっこ、年中組:ビンゴなど) 年長組は、チャレンジする目標を決め、到達段階がわかるようシールを貼るなど可視化することで、気持ちが向いてやってみようとする子ども達が増えた。特に縄跳びは、全員跳べるようになり、運動会の種目にも入れることができた。 ヤモリの孵化や冬の氷など、自然や生き物に目を向け、興味や知識を深める取組みができていた。 	A
	子どもが主体的に参加し、成長につながる行事の取組みが出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> 5月に、年少組と年中組で親子遠足を計画。新しいクラスでの親睦ができた。年長組は多摩動物園に行き、各クラスでいろいろな動物を見て回り、楽しい時間となった。 7月に年長組が大地沢で1泊2日のサマーキャンプを行い、保護者と離れて泊まる経験が、子ども達にとって大きな自信につながっている。 年少組のわくわくデーは「いちごパフェエレベーター」、年中組のスペシャルサマーデーは「夏祭り」をテーマに、子ども達と話し合いや準備を進めたことで、当日を楽しみに待つ気持ちを膨らませ、その世界を楽しむことができた。 夏から秋の暑さを考慮し、今年度より運動会とプレイデーの開催時期を入れ替えた。プレイデーに向けて、夏期保育に島田由実先生のワークショップで年長組がひまわりを作成したり、外遊びができない時期だったので、室内で製作活動に集中できたので良かった。プレイデーは1ヶ月早くなったが、子ども達が無理なくその子なりの表現や作品作りができた。 運動会では年長児が他学年の子ども達にダンスを教え、一緒に踊る機会が多く、本番でも座席で踊る姿があった。レッツチャレンジの縄跳びをみて、年中組がチャレンジするなど、年長組に対する親しみや憧れの気持ちに繋がっている。 クリスマスは、年長組と年中組は1クラスずつ一緒に、年少組は3クラスで礼拝とページェントを行い、保護者も参加してお祝いした。さくらんぼ組は、親子で礼拝、祝会をし、クリスマスの意味を知ることができた。運動会后、すぐにクリスマスの練習が始まるため、運動会の開催時期を見直す必要がある。(寒さも含め) 	A

	園と小学校の円滑な連携の取り組みが出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> ・市主催の幼小連携連絡会に出席し、近隣の小学校や保育施設と幼小連携について情報交換や理解を深めている。この連絡会が、最寄りの本町田ひなた小学校1年生と交流するきっかけとなった。 ・2月に年長児が本町田ひなた小学校を見学のため訪問。5年ぶりに1年生と交流できた。授業の様子を見学したり、実際に使う教科書を見せてもらうことで小学校生活がわかり、1年生と関わることで楽しさも感じる事ができたようだ。今後も続けていきたい。 ・幼小連携の一環でアプローチカリキュラムを作成し、年長児が進学する各小学校に送付している。また、小学校からもスタートカリキュラムが送られてきている。 	A
情報提供	地域、関係機関への情報発信が出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> ・本町田ひなた小学校に園だよりを送付している。 ・子育て支援に関する情報をHPや町田市の子育てカレンダーに載せている。外向けの掲示板には、市のお知らせの他に子育て相談にも応じる旨の掲示をしている。 	A
	ドキュメンテーションの取り組みは充実しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、写真入りのクラスだよりや学年だよりを発行したり、ホームページ内のブログを定期的に更新して、保護者に子ども達の様子を伝えている。 ・給食のメニューは毎日、写真入りで玄関のところに掲示しているので、帰り際に見て親子で会話を交わすきっかけになっている。HPでも献立紹介をしているので、バス利用の家庭も見られるようになっている。 	A
	保護者との連携は適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> ・父母委員会の定例会に、担当職員が出席し、園の様子を伝えたり、父母会運営やサークル活動に関して意見交換を行っている。 ・サークル活動のお知らせをれんらくアプリでのメール配信、園からの手紙やお知らせを掲示板で配信と分けるようにした。 ・昨年度に引き続き、未就園児クラスを対象に発表の機会、入園時に必要なグッズ販売を行うことでサークル紹介の機会となった。 ・コンサートや劇の公演、読み聞かせ、お楽しみ会など園の子ども達に向けての活動も精力的に行ってください、子ども達も楽しく参加する姿が見られた。 ・クリスマスでは、絵本バザーや手作り作品バザーを通して献金につなげてくださっており、年々金額も増えている。 ・参観や行事の後に、意見や感想をいただき、保育について気づきや考えるきっかけとなっている。 	A
保健衛生安全管理	危機管理体制の整備は充分か	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に、園内の設備や遊具の安全点検を行い、必要に応じて修理を行っている。今年度は、業者による遊具点検を行った。 ・地震や火事を想定した避難訓練を毎月、不審者対応訓練を年2回、行っている。 ・夏は2階のテラスが暑くなり、子ども達が遊ぶ環境としては熱中症の危険があるため、夏休みにクーラー3台設置した。 ・今年度より電子錠アケルンを導入。保護者のスマートフォンから正面玄関や通用門の鍵がかけられるようになった。 	A
	感染症についての対応は適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナやインフルエンザに罹患する子ども達が増えてきた段階で保健だよりをメール配信し、注意喚起をした。様々な家庭の事情を考慮し、クラスで感染者が増えた時には知らせる、感染症を広げないよう、登園の基準、家庭への配慮をしっかりと伝えていく必要がある。 ・今年度は、運動会後に年長組でインフルエンザが流行ってしまったので、運動会の時期を今一度考える。 	B
	保健衛生に係わる情報を適切に保護者・職員に提供できていたか	<ul style="list-style-type: none"> ・登園許可証のいる疾病やインフルエンザ・コロナなどの感染症の自宅療養期間はガイドに掲載し、いつでも確認できるようにしている。(ガイドは今年度よりアプリ配信しているので、スマホなどから確認できるようになっている) ・登園許可のいる疾病やインフルエンザの感染状況は、事務室のホワイトボードに記入し、全職員で共有している。 ・感染症が流行った時や検診の後などに、保健だよりを発行し、保護者に情報提供している。 	A

研修	教職員間の共通理解が出来ていたか	<ul style="list-style-type: none"> ・会議で決まった事項などは議事録として、全教職員にメール配信して伝達している。今年度は、ひだまり担当者の中から1名、会議に参加し、会議の内容を共有しているため共通理解できている。 ・学年便りや行事の詳細、連絡事項等は必要に応じて、事務室のホワイトボードに掲示している。また、毎日、各学年の活動を書き出し、毎朝確認することで、教職員全体に必要な情報が伝わるようにしている。 	A
	教職員の資質向上の為に研究・研修が充実していたか	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期末と2学期末の土曜日を研修日としている。1学期末は、子どもの感情表現をテーマに、それにまつわる動画を見たり、意見交換をした。2学期末は子ども主体の保育をテーマに、さふらんの保育を良くするための話し合いができた。 ・外部研修およびキャリアアップ研修に多数参加している。報告書を作成し、誰でも閲覧できるようになっている。職員会議や研修で報告する機会も増やしている。 ・2月には、天野珠路先生にナーサリーの環境を見ていただき、研修することができた。 	A
特別支援	特別支援教育についての取り組みは適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりの様子をしっかりと把握し、担任だけではなくフリー教諭とも情報を共有することで個々に応じたフォローができています。 ・佐藤剛彦先生に継続して子どもの様子を見てもらい、必要に応じて助言や指導してもらっている。さふらん会への参加、保護者との面談を通して保護者支援に繋がっている。 ・療育機関が訪問し、様子をみてもらったり、それぞれの情報を共有するなど連携している。また、今年度は園と施設間を送迎してもらい、登園・降園する子が数名いたが、スムーズに行われていた。 	A
キリスト教保育	子どもにキリスト教精神を伝える取り組みができていたか	<ul style="list-style-type: none"> ・20年以上、さふらんと関わってくださった瀬戸牧師が年中・年長組のクリスマス会を最後に引退され、年少組のクリスマス会より島牧師(4月～鶴川教会の牧師着任)に代わる。月1回、牧師の話を聞く機会があることで、キリスト教への理解をより深めることができています。 ・年2回の教職員研修では、瀬戸牧師と共にさふらんの保育についてキリスト教の視点から考えたり、クリスマスについて思いを共有する時間となった。 ・日々のお祈り、感謝礼拝やクリスマス等のキリスト教ならではの行事を通して、感謝する気持ちや思いやりの気持ちが育っている。 ・キリスト教保育連盟に加入し、研修会等で他園とも情報交換する機会となっている。 	A
環境整備	園内外の環境整備ができているか	<ul style="list-style-type: none"> ・町田市の花壇コンクールが始まった当初から毎年参加している。保護者の有志の方に苗植えをお手伝いいただき、今年度は、春に最優秀賞、秋に優良賞を受賞した。 ・園内に限らず、園の周りの歩道等も掃除をしてきれいに行っている。 ・9月にドーム天井の清掃を業者に行ってもらった。 ・2～3年毎に園庭樹木の剪定をしており、今年度は2月に行った。 	A
乳児保育	環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られたか	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳児12名。2歳児は4名の新入児が加わって16名。 ・乳児保育は子どもとの信頼関係を築くことを大切に、子どもの様子に応じて、フリーやパート保育士が入って、ゆったり丁寧に関わることによって、子ども達も安心して過ごせている。 ・保育時間が長いので、遊びの時間を大事にしつつ、わらべうたや製作活動を取り入れ、成長につながる保育内容や環境づくりができています。 ・幼稚園が春休みに入ったところで、りんご組はランチルーム、うさぎ組はりんご組で保育を行うことで新しい環境に慣れるよう配慮している。 ・遊具や室内設備の点検、消毒はこまめに行っている。 	A

<p>預かり 保育</p>	<p>ひだまり保育の充実の為の取り組みが出来ていたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、1日の利用人数が多くなっているため、今年度は3学年合わせて6～7名の教職員が保育にあたっている。ひだまり保育担当もにじの時間の保育に入り、個々の子どもの様子を把握したうえで午後の保育に繋げている。 ・16:30にお迎えが集中することが多く、駐車場の混雑緩和のため、すぐに帰れるように正面玄関で待機するようにしたことで、以前に比べたらスムーズに帰れるようになった。 ・夏休みは保育時間が長い上に、暑さのため、園庭で遊ぶことができないので、ホールを変わりあって使う等、子ども達が発散できるよう工夫していた。 	<p>A</p>
<p>子育て 支援</p>	<p>保護者のニーズに応じた子育て支援ができていたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児クラスは、あひる組(0～1歳)・ひつじ組(2歳)の2クラスを年間20回前後行っている。特に、ひつじ組では親子共々、徐々に顔なじみになり、入園に向けて良い関係作りができています。 ・地域の未就園親子を対象に園庭開放やイベント(水遊び、リトミック、親子ヨガなど)を計画、実施している。参加している親子は楽しんでいますが、参加者が少なくなっている。 ・来年度の入園希望者の中にナイジェリアから来日した親子がいる。今後も増えることが予想されるので、今まで以上に多言語でのコミュニケーションをとる方法を考えていく。 	<p>B</p>
<p>食育</p>	<p>子どもに対して適切な食育をしているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食材費が高騰している中でも、季節の食材を取り入れ、行事にちなんだ献立を提供している。食事を通して、季節感を感じたり、昔から伝わる行事への興味につながっている。 ・今年度は、年中組が梅干し作り、年少組が梅ジュース作りを行った。食べられるようになるまでの過程を知り、楽しみに待っていたので、味わうことができ喜び姿があった。 ・今年も園内の花壇で野菜を育て、水やり等の世話をし、生育を楽しむに、食べる喜びを感じることができている。 ・各学年、上川さんの畑で収穫体験をすることができ、野菜を収穫する喜びを感じ、野菜を知るきっかけとなっている。今年、上川さんに感謝礼拝に参加し、子ども達と一緒に給食を食べていただくことができた。 ・年少組の3学期からご飯の配膳、年中組からは食事の配膳を自分で行うことで食べられる量がわかるようになっている。また、食事の姿勢、箸やスプーンの持ち方などこまめに声掛けするだけでなく、学年だよりなどで家庭にも伝えている。 ・感謝礼拝やシエラレオネの話を通して、食に対する感謝の気持ちや残さず食べる気持ちを育てている。 ・園庭に実った果物は、クラスで子ども達に紹介し、食べる機会を作っている。 	<p>A</p>
	<p>アレルギー対応は適切に出来ているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギーがある子については、年度初めに全教職員に口頭説明、プリントなどで周知している。変更があった場合も、職員会議で伝えている。 ・なかよし給食(乳・小麦・卵を使用しない給食)、魚アレルギーに加え、果物のアレルギーを持っている子が増えてきており、献立によって代替の物を提供している。その際は、誤食がないよう、食器の色を変える等、細やかな配慮で全園児が安全で安心かつおいしい給食を食べることができている。 ・アレルギー対応で不足しがちなカルシウムやたんぱく質を他の食材で補えるよう工夫している。 ・プレイデーやクリスマスのケーキは、アレルギー児向けに米粉などの代替食材を使って、キッチンで焼いたものを提供している。また、おたのしみ給食等でも、渡し間違いがないよう、教職員で共有し、札をつけるなど配慮している。 ・ケーキ作りの時は、参加の有無を保護者と相談して決めている。少しでも違う様子が見られた時は、保護者に知らせている。 	<p>A</p>

IV. 総合評価

[総合評価]A

- ・各担任が子ども達の成長段階をもとに、意欲的に取り組めるような活動を考えることで、子ども自身が達成感やできるようになったことの喜びが感じられ、自信や大きな成長につながった。
- ・暑さを考慮し、今年度より運動会とプレイデーの開催時期を入れ替えた。外に出ることができない時に室内でじっくり作品作りをすることができたのは良かった。一方、運動会は寒さの心配があることと終了後に年長組を中心にインフルエンザが流行ってしまったので、時期を再度、検討していく。
- ・コロナ以来、できていなかった本町田ひなた小学校の1年生と交流することができた。授業の様子を知り、1年生が優しく接してくれたことで小学校への進学への不安が減り、楽しみに思う気持ちになった。
- ・保育の中で大切にしていることや子育てで大事にしてほしいことは、懇談会で園長だけではなくフリー教諭が話したり、園だよりで発信している。

V. 今後の課題

- ・運動会の開催時期を再考するだけではなく、行事や保育内容が子ども達の成長段階に見合っているか、子ども達が無理なく取り組めるものであるかを考え、保育計画を検討していく。
- ・子ども達が身の回りのことを自分の力で進め、生活力が高められるよう家庭と協力しながら成長を支えていく。
- ・本町田ひなた小学校の1年生との交流を続けていく。
- ・日本語の理解が難しい家庭が円滑に園生活を送れるように支援する。
- ・クラス委員の選出を行わないので、これまで父母委員会が行ってきたことを保護者の協力を得ながら、進めていく。

VI. 父母委員の皆様からの意見

- ・暑い時期に運動会の練習をするのは危険なので、プレイデーと運動会の時期を入れ替えたのは良かった。運動会の開催時期をかえても、天気はわからないので、時期よりも服装などの対策を考えた方がよい。
- ・れんらくアプリで感染症がどのクラスに出ているかを教えてもらえたのは良かった。
- ・さふらんに弟妹のマイ保育園登録をしたい。→ 現在は市にマイ保育園としての登録ができない状況です。
- ・日々、子ども達のことを考え、いろいろ工夫して保育しているので、子どもが楽しく過ごしている。
- ・お迎えに来ると園での生活がよくわかる。バス利用者への情報が少ないので、もう少し配慮してほしい。
- ・先生達の細やかな配慮が感じられ、どのクラスも落ち着いている。安心して子どもを預けることができる。

VII. 学校関係者委員会の意見(現父母委員4名、卒業生保護者1名、近隣の有識者1名)

- ・さふらんの良さが直接伝わるような発信をしてほしい。
(日々の子どもの様子が見えるような動画やブログ等/早坂先生の言葉が印象的なので懇談会などで話す等)
- ・ブログは文章が少なくても良いので、写真をもっと増やしてほしい。れんらくアプリにブログのリンクを貼り、ブログを更新したらアプリで知らせてもらえるとより見やすくなる。
- ・年長の子ども達が小学校へ入学した時にギャップを感じないように小学校との交流の機会を増やしたり保護者への取り組み(学童のことや持ち物など入学前に不安を感じる保護者向けに小学校の保護者が相談にのるなど)があると良い。
- ・父母の委員会組織が来年度から無くなってしまうが、サークル活動・懇談会等、園とのつながり、保護者同士のつながりがあるのは、さふらんの良いところだと思うので継続してほしい。
- ・仕事をしている保護者も多いので難しい面もあるが、サークルなどではなく、単発で気軽に参加できる場のような保護者のつながりのある文化を大切にほしい。
- ・食育の体験がとても充実しており、畑に行く機会もなかなかないのでありがたい。給食も季節のメニューが凝っていて充実している。子ども達が給食を作っている方の名前を覚えているのはとてもすごいことだと思う。